

向き合う裸婦 乙女の像の物語

十和田湖の国立公園指定15周年を記念して制作された、十和田湖発展の功労者をたたえるためのモニュメント。三本木高校校歌の作詞を手掛けた詩人・佐藤春夫の熱心な働き掛けもあって、日本を代表する彫刻家であり詩人である高村光太郎が渾身の力を込めて送り出したのが「乙女の像」です。

最愛の妻、智恵子を亡くした光太郎は芸術活動から遠ざかっていましたが、十和田湖の素晴らしさに心を動かされ制作に取り掛かったと言います。汚らわしさのかけらもないこの自然の威力に堪えようと、同じ型から生み出した二体の裸像を無限の意味を込めて天で交わるような三角形に配置しました。詩の中では「非情の金属が青くさびて 地上に割れてくずれるまで この原始の圧力に堪えて 立つなら幾千年でも黙って立って」と歌っています。除幕式は昭和28年10月。昭和31年4月に光太郎は生涯を閉じ、乙女の像は光太郎にとって最後の大作となりました。

十和田湖の力

十和田湖の美しさは、大自然の営みによるものでした。秘境に息づく厳かな湖は、長い間霊力のある神秘の場所としてあがめられ、多くの人に力を与えました。近代では、圧巻の自然にひきつけられた著名人が、その人生を彩りながら物語を残していきました。

の私たちに活力を与えてくれます。来年、十和田湖は国立公園指定80周年を迎えます。まさに世界に誇れる、私たちの名勝十和田湖。湖面まばゆく、緑揺らぐ絶好の季節。夏の十和田湖で深呼吸し、癒しと活気をいただきます。

参考文献
▼松浦武四郎『鹿角日誌』
▼青森県立郷土館2011『十和田湖・八甲田山』



環境省・青森県・市・地区会が進める

十和田湖観光再生行動計画 進捗中！

十和田湖地域の賑わい創出に向けて中長期的な目標を掲げ、平成26年度から具体的な取り組みを進めています。変わりゆく十和田湖にご注目ください。

pick-up
完成



十和田市「ぶらっと」オープン
(観光案内の拠点施設)



環境省「ビジターセンター」オープン
(自然観察の拠点施設)



青森県・十和田信仰の歴史ガイド
・占い場の遊歩道整備



pick-up
進行・検討中

環境省
・駅前広場の再整備
・廃屋などの撤去

十和田市
・十和田神社鳥居付近の市道を石畳に

休屋地区会
・門前町の街並み整備

青森県
・秋田県と共同で魅力再発見動画を作成
・看板の外国語表記
・JR駅でのキャラバン

第50回十和田湖湖水まつり 7月18日(土)・19日(日)

ところ 十和田湖畔休屋棧橋前広場

- ▶湖上花火大会 両日午後8時～9時
- ▶花火観覧船 両日午後6時30分乗船開始
- ▶乙女の像ライトアップ
19日(日) 午後6時30分～10時
- ▶ペタルボートレース
19日(日) 午前10時30分～ 参加料1チーム500円

